

平成30年度 東村山市立 八坂小学校 学校評価報告書

学校教育目標	
人と社会、自然等と協調しながら進んで実行する子供を育てるため、次の目標を設定する。 ○健康な子 ○心豊かな子 ○よく考える子ども	
目指す学校像(ビジョン)	
【目指す学校像】	学校が楽しい、明日も来たい
【目指す児童・生徒像】	自他を大切にし、認め合い高め合いながら、めあてに向けて努力する子ども
【目指す教師像】	教育のプロとしての自覚をもち目標達成のために「チーム八坂」として協働する教師

前年度までの学校経営上の成果と課題
 「チーム八坂」として斉一性が図られ、主体的な問題解決型の学校運営ができるようになってきている。生活習慣については、依然として課題が残る。教師の指導力向上に努め、一人一人の考えを尊重しつつ、集団解決する思考力・判断力・表現力の育成を図るなかで、学ぶことの楽しさを児童が実感できる学校づくりを行っていく。

	具体的方策	第1回評価		課題と対策	第2回評価		課題と次年度以降の対策
		努力目標	成果目標		努力目標	成果目標	
学力向上	東京ベーシックドリル診断シートで児童の実態を把握する。東京ベーシックドリルを活用した計算検定の実施や、授業の帯時間を利用して、基礎的・基本的な内容の定着を図る。	4	11月に実施	4月の東京ベーシックドリル診断シートの結果、数と計算の領域の中では、小数の扱いや、計算の決まりが定着していない児童が少なくないことが分かった。算数の時間の初めには毎回5分程度での計算練習を継続している。11月の計算検定に向けて、計算問題について重点的に朝学習で繰り返し練習を進めている。	4	4	計算検定の合格者は96%であった。主に9、10月の朝学習の時間に練習し11月の検定に取り組んだ。1年生の問題が11月に学習するところも含んでいたため、再考する。数と計算の領域の基礎的・基本的な定着には、算数の時間の初めの5分程度での計算練習も有効なので、継続していく。
	授業や日常の学習を通して、児童の話すこと・聞くことを身に付けさせる。	3.6	4	「日常や授業など、日ごろからよく話を聞いて取り組むことができましたか。」という問いに肯定的にこたえた児童は93%である。授業だけでなく、集会など全校児童が集まったときもよく話を聞いている。昨年度までの国語の研究の成果を継続させ、スピーチ活動に取り組んだり、話し合い活動を取り入れたりして話すこと・聞くことを身に付けさせている。主体的・対話的で深い学びの実践に向けて一層充実させていきたい活動である。	3.7	4	「日常や授業など、日ごろからよく話を聞いて取り組むことができましたか。」という問いに肯定的にこたえた児童は第1回評価と同じ93%である。昨年度までの国語の研究の成果を継続させ、また、主体的・対話的で深い学びの実践に向けて他の教科等でも話し合い活動を取り入れ、話すこと・聞くことを身に付けさせている。日常的なスピーチ活動とともに、充実させていきたい。
健全育成	いじめを許さない態度の育成に向けて、言語環境を整え場に応じた言葉を使うよう指導する。	3.7	4	「あまり実施できなかった」と答えた教員が数名おり、教職員全体が肯定的な回答ができるようにすることが課題である。教員研修や児童理解の機会を通して、一人一人の「いじめは絶対許さない」という認識や態度を高めていく必要がある。	3.8	4	4月から12月までに、5件のいじめ事案があった。どれもいじめと認知する以前から指導してきたが、継続指導を要する。「いじめはどの学級でも起こるものだ」という認識の下、事前防止・事後解決を根気よく図っていく。
	どの児童に対しても同じ判断基準で、あいさつや授業規律等について、ほめる時はしっかりとほめ、叱る時はしっかりと叱る。	3.9	4	児童アンケートによると、肯定的回答をしている率が中学年が70%台で、他は80%以上であった。保護者アンケートでは、肯定的回答が82%である。挨拶・規律とも日頃の指導の成果が児童の実態に即反映されるため、児童が気持ちよく学校生活を送れるように充実した指導を継続したい。	4.0	4	あいさつを学校内では習慣としてしっかりできているが、外ではしないという声がある。あいさつはコミュニケーションの基本であることを場面に応じて指導するとともに、保護者へ家庭教育を投げかけていく。授業規律はある程度のスタンダードは必要であり、八坂小の「学習のきまり」については各学級で徹底したい。
健康・体力づくり	授業改善に努め、児童がいろいろな運動を意欲的に取り組めるようにする。外遊びを奨励し、運動や遊びの楽しさを味わわせるようにする。	3.3	4	本年は特に6、7月の気温が高く、児童がハッピータイムで運動や遊びをする上で、時期や時間、回数を工夫して行うようにしていきたい。用具が増えたことで授業改善に活かすことができたが、指導者が用具の使い方を知っていく必要があるため、共通理解をする機会を設けていく。	3.3	4	ハッピータイムが昼休みということで、給食があわただしくなり、食べた後に体をたくさん動かすため、あまり体によくないのではという声があがっている。ハッピータイムは、暑さ対策も考慮し、実施時間を検討していきたい。
	毎日ハンカチや手拭きタオルを持参し、遊びや運動後、給食前には必ず手洗いをすることを指導する。	3.5	4	学年が上がるにつれ、ハンカチ持参率は低い傾向にある。今年度は、保健委員会が各クラスのハンカチ持参についてのアンケートを7月にとり、その結果を10月の全校朝会で発表した。今後も委員会活動と協力しながら、持参率が上がるように呼びかけをしていきたい。	3.3	4	学級の中で、ハンカチ持参を呼びかける等の係活動を行った学級もあった。今後はインフルエンザが流行する時期であり、手洗い・うがいとともに、持参のハンカチやタオルで拭くことを奨励していく。また、3学期には保健委員会が2回目のアンケートを実施する予定である。
保護者・地域との連携	地域の自然や施設、人材等を活用した授業を児童の実態に合わせて積極的に展開する。	3.4	4	地域の自然や施設、人材等を活用した授業を年間4回以上実施予定の担任は、71%、年間2～3回実施予定の担任は29%である。「地域の自然や施設を見たり、地域の方や保護者の方に来ていただいた授業に楽しく参加できましたか。」という問いに肯定的にこたえた児童は95%である。学びの多いこれらの活動を充実させていけるよう、学校全体として内容等の検討をしていく予定である。	3.7	4	全学年とも地域の自然や施設、人材等を活用した授業を年間4回以上実施した。こうした地域資源を活用した取り組みは、子どもたちの教育環境として大変重要だと考える。福祉体験、中央公園、商店街での取り組みなど、様々な面で地域と協力が継続できている。今後も保護者や地域が積極的に子どもたちをサポートしていこうにしたい。
特色ある学校づくり	年11回のレインボー活動を、児童が思いやりの気持ちや連帯感・協調性を育てるように実施する。	3.3	4	「レインボー活動は楽しくできていますか。」という問いに肯定的に答えた児童は93%であった。6年生が中心となって、レインボー活動を計画、実施することができている。縦割り班で活動することは、異学年の交流の場として貴重な機会となっているので、更なる充実を図りたい。	4	4	「レインボー活動は楽しくできていますか。」という問いに肯定的に答えた児童は93%であった。6年生が中心となって、レインボー活動を計画、実施することができている。12月よりレインボー集会で6年生から5年生に仕事を引き継ぎ始めた。来年度、最高学年となるので、自覚をもって臨めるように指導していく必要がある。